

定植から4年で成園並収量が得られるナシ・ジョイント仕立て法

ナシ‘幸水’は樹齢が30年を越す高齢樹が多く、収量や樹勢の低下が大きな問題となっています。しかし、改植による一定期間の収益減少は経営に与える影響が大きく、ナシ園の若返りはなかなか進んでいません。

この問題を解決するため、定植と同時に直線状主枝を確立する新たなジョイント仕立て法を考案しました。

定植時に主枝部が水平に連結されることから、側枝となる新梢の発生とその後の生育が良好となり、無収益期間も僅か1年に短縮されます。定植4年目（5年生）には‘幸水’で成園並の収量（3 t/10a）が確保され、画期的な超早期成園化技術として大きな期待が寄せられています。

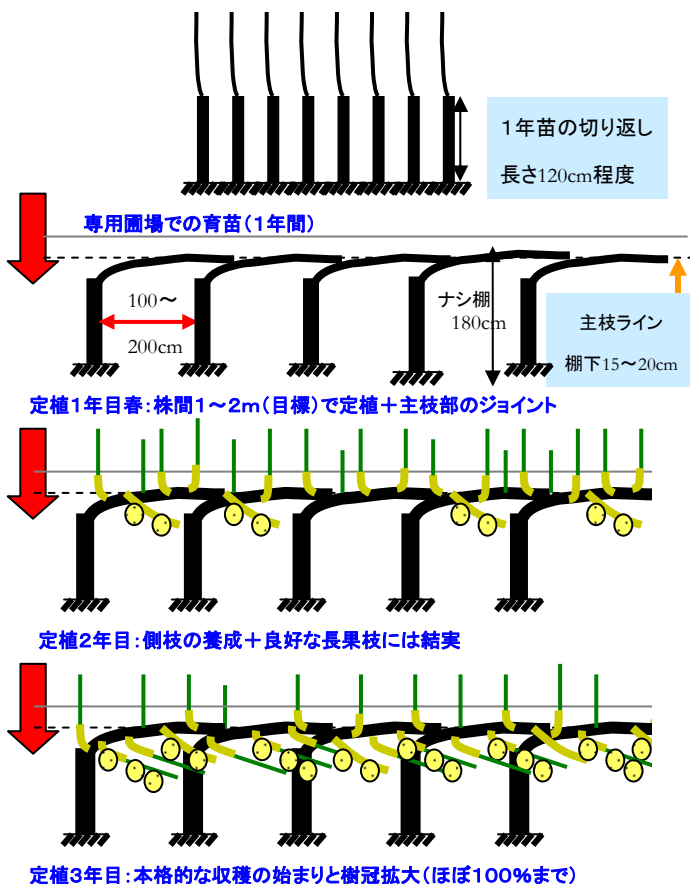


図1 樹体ジョイント仕立ての樹冠完成までの生育パターン



図2 ‘幸水’超早期ジョイント仕立て樹

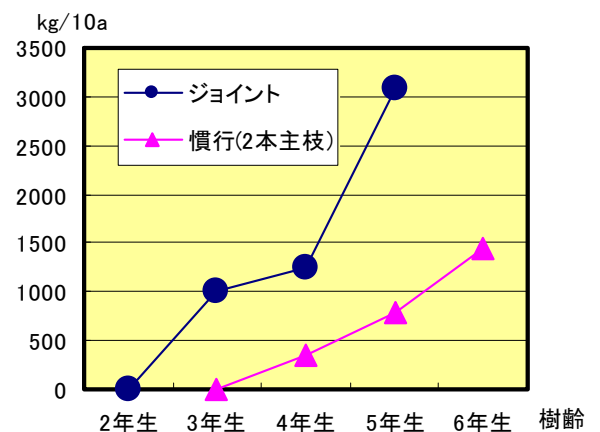


図3 ‘幸水’超早期ジョイント仕立て樹と2本主枝仕立て樹の10a換算収量の推移(2006~2009年)